

第2期

宮前地区地域福祉活動計画

令和4年度～令和8年度

【基本理念】 次世代へつなぐ

福祉のバトン 温かく



宮前地区社会福祉協議会
(宮前地区地域福祉活動計画策定委員会)

宮前地区の主な文化遺跡

【平安時代の武将・藤原純友にまつわる遺跡】

◇藤原純友の館跡（古三津4丁目 明神丘）



◇藤原純友の駒立岩（古三津5丁目 久枝神社内）

～馬に乗った純友がこの岩の上から潮の干満を見たと言われている。～



【「刈屋畑の合戦」にまつわる遺跡】

～「刈屋畑」は、古三津1丁目、2丁目～

◇能島内匠頭 のとうたくみのかみ 源 みなもと 吉忠 よしただ のお塚

(村上水軍の根拠地能島の城主)

～地元では「能島さん」と呼び、大切に祀っている～



◇村上大明神（古三津1丁目）

～毛利軍の大將 村上元吉の祠、「村上さん」と呼ばれ祀られている～



※表紙写真は古三津虎舞保存会の皆さん（三津巖島神社秋祭り）

地域福祉活動計画の策定にあたって

このたび、宮前地区社会福祉協議会では、第2期となる宮前地区地域福祉活動計画を策定することになりました。

第1期は、平成25年に策定されました。その後、地域を取り巻く環境も変わってまいりました。宮前地区は、JR三津浜駅や伊予鉄郊外電車など公共交通機関に恵まれ、生活環境の良さから、高層マンションなどが建設され世帯数はやや増えているものの人口は減少、65歳以上の高齢化率は約32.8%に増加しています。

そこで以前と同じく「次世代へ つなぐ福祉のバトン 温かく」を基本理念とした活動計画を策定しました。

また、歴史文化遺跡も数多く地元の方々により大切に保存され、伝統芸能として県の無形民俗文化財に指定されている文楽「伊予源之丞」、約400年の歴史のある郷土芸能の「虎舞」が、保存会の方々により受け継がれています。

町内会や各団体、関係機関と連携協力し、福祉力を高めていきたいと思えます。新型コロナウイルスの感染が急速に拡大し、感染防止のため自宅待機が求められ、地域福祉活動の中止や縮小を余儀なくされています。地域の皆様方には、ご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

この「第2期地域福祉活動計画」の策定にご協力頂いた多くの皆様方に、厚くお礼申し上げます。

令和4年3月

宮前地区社会福祉協議会
会長 和田克博

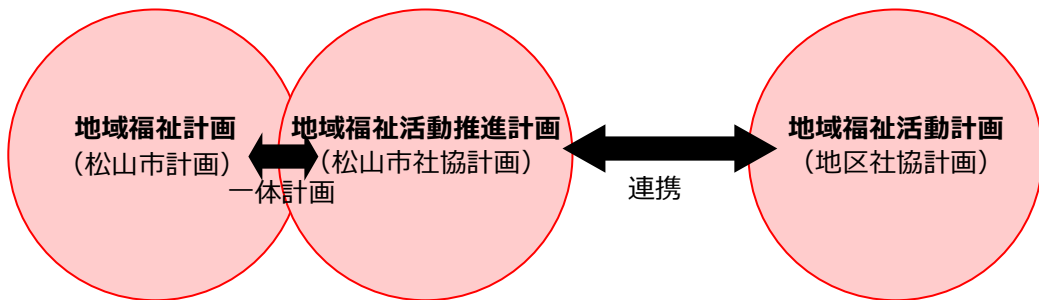
目 次

松山市における地域福祉に関する計画の連携と比較	・ ・ ・ ・ ・ P 1
地区社会福祉協議会について	・ ・ ・ ・ ・ P 2
宮前地区社会福祉協議会の概要	・ ・ ・ ・ ・ P 3
地域カルテ	・ ・ ・ ・ ・ P4~5
宮前地区の主要交通網と いこいの場	・ ・ ・ ・ ・ P6
宮前地区地域福祉活動計画	・ ・ ・ ・ ・ P 7~P 9
宮前地区地域福祉活動計画策定委員会の開催状況	・ ・ ・ ・ ・ P 10
宮前地区地域福祉活動計画策定委員名簿	・ ・ ・ ・ ・ P 11
宮前地区資源マップ (防災マップ、介護保険事業所、社会資源、旧町名)	・ ・ ・ ・ ・ P 12~P 17
宮前地区紹介	・ ・ ・ ・ ・ P 18
宮前地区ふれあい・いきいきサロン開催状況一覧	・ ・ ・ ・ ・ P 19
伝統芸能 1.古三津虎舞保存会	・ ・ ・ ・ ・ P20~P21
伝統芸能 2.伊予源之丞保存会	・ ・ ・ ・ ・ P22~P23
宮前文化遺跡を守る会	・ ・ ・ ・ ・ P24~P27

1 松山市における地域福祉に関する計画の連携と比較

地域福祉の推進を図るためには、下記の計画が内容を一部共有したり、策定過程を共有する等、相互に連携し一体となって進めることが重要であり、互いに補完・補強しあう関係にあります。

【イメージ図】



【地域福祉に関する計画の比較】

計画	地域福祉計画・地域福祉活動推進計画 (このまちのえがおプラン)	地域福祉活動計画
策定主体	松山市・松山市社協	宮前地区社協
対象地域	松山市内	地区内
実施期間	5年	5年
基本目標 (基本理念)	みんなが つながる 支える まちづくり	次世代へつなぐ 福祉のバトン 温かく
計画の特徴	<p>目標1 支えあいの心を育む</p> <p>目標2 みんながつながり参加できる環境づくり</p> <p>目標3 丸ごと支援のしくみづくり</p> <p>目標4 福祉サービスの健全な発達と適切な利用促進</p> <p>以上の4項目を個別目標に掲げ、住民一人ひとりや住民組織、ボランティアグループ、NPO等の関係団体、学校、事業所等、地域の多様な主体がそれぞれの役割を担いながら、互いにつながり、支えあうことで、“誰もが暮らし続けたい”と思えるまちづくりを目指します。</p>	<p>①地区社協の基盤整備 ②福祉学習とボランティア ③在宅福祉・生きがい介護予防サービス ④関係団体との協働・連携 ⑤その他</p> <p>以上の5項目を基本とし、地域性を活かした事業を計画的に展開する。地区社協が中核となって、住民の主体的参加を基本とした地域福祉活動をより計画的・具体的に進めるとともに、地区社協の基盤強化を図る。</p>

2 地区社会福祉協議会について

(1) 地区社協と市社協の役割と現状

地区社協とは、地域福祉に関する問題や課題を住民が主体となって発見・協議し、解決のための方法を自らが考え、実践に結びつけると共に、必要に応じて市社協をはじめ関係団体等と連携・協働し「地域住民だれもが住みやすいまちづくり」を目指す任意の団体です。

(2) 地区社協と市社協の連携・協働事業

- ① 地域福祉サービス事業（点数預託による住民参加型在宅福祉サービス）

- ② ふれあい・いきいきサロン事業
（宮前地区 4 拠点 /松山市全域 166 拠点）

- ③ 地域交流サロン事業
（松山市全域 42 サロン）

- ④ 地域福祉活動計画の策定（32 地区社協策定済 / 令和 3 年 4 月現在）
（宮前地区 第 1 期計画 平成 24 年度策定）

- ⑤ その他（地域の特性を生かした地区独自の事業等）

(3) 地域福祉活動計画（地区社協）の必要性

「地域住民だれもが住みやすいまちづくり」を目指すため、地域ごとの特性を生かした地区社協単位での活動計画の策定を行い、住民参加による小地域活動の推進が求められています。また、行政計画及び市社協計画とも連動した計画となるよう、連携、協働が重要です。

3 宮前地区社会福祉協議会の概要

■地区の概要

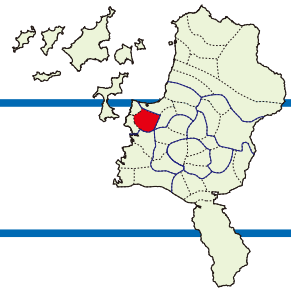
(令和4年 3月 1日現在)

面積	2.95k m ²
人口	14,375人
世帯数(1世帯当たりの人口)	7,063世帯(2.03人)
高齢者数(高齢化率)	4,725人(32.8%)
民生委員・児童委員(主任児童委員)	25人(2人)
町内会	31ヶ所

宮前地区は松山市の北西部に位置し、松山の海の玄関である三津浜・高浜地区に隣接している。以前は農業を中心とした地区であったが、近年は住宅造成等により核家族世帯が増加しているが、高齢者の単身世帯も増加している。このため、新旧住民の意思の疎通を図り、地域住民が一体となったコミュニティづくりを進めなければならない。こうした観点から、地域に密着した活動が実施できるよう、公民館が拠点となって住民参加を促し、地域の活性化を図っている。また、文楽「伊予源之丞」や虎舞といった郷土芸能や文化遺跡を守る会の保存にも力を入れ、あらゆる活動を通じて明るく住みよい町づくりを推進している。

■地区社協の概要

主な活動拠点	宮前公民館・三杉集会所・中須賀集会所・辰巳集会所・内浜集会所・祓川集会所・大明神集会所・ひばりヶ丘集会所・青葉台集会所・東山集会所・桜ヶ丘集会所・中央ハイツ集会所・みどりヶ丘集会所
役職	会長(1名)・副会長(8名)・事務局長(1名)・会計(1名)・理事(12名)・総代(68名)・監事(3名)・顧問(2名)・参与(4名)・援護部長(1名)・啓発調査部長(1名)
理事会等の開催	理事会(年1回)・総会(年1回)
構成関係団体	地区民協・広報連絡協議委員会・公民館・PTA・母子会・保護司会・婦人会・高齢クラブ連合会・三津浜支所・中学校・小学校・サロン・子供会連合会・更生保護女性会宮前支部
主な自主事業	地域福祉サービス事業、ふれあい・いきいきサロン事業、福祉学習事業、ふれあい料理教室、共同募金活動、敬老の日記念事業、独居・寝たきり高齢者慰問、福祉だより、施設訪問
サロン数	ふれあい・いきいきサロン 4ヶ所
地域福祉活動計画の策定状況	令和3年度策定



みやまえ

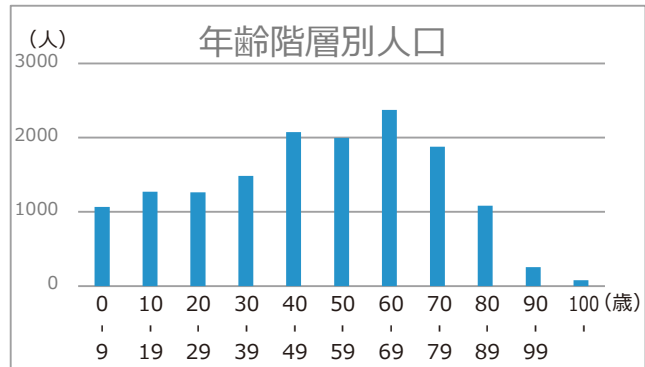
宮前地区 地域カルテ

【地区の特色】

宮前地区は、松山市の北西部に位置し、松山の海の玄関である三津浜・高浜地区に隣接している。以前は農業を中心とした地区であったが、近年は宅地造成等が進んでいる。また、文楽「伊予源之丞」や虎舞といった郷土芸能、文化財史跡の保存にも力を入れ、あらゆる活動を通して明るく住みよいまちづくりを推進している。



虎舞



(平成30年4月1日現在)

【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校のグラウンドにて防災訓練を行い、避難経路の確認や炊き出し訓練を行っている ・ 新しい家、若い世代も増えて、一部では子ども会も復活し、三世交流が行われている ・ 高齢クラブやグランドゴルフ愛好者などが、利用する公園や地域の美化に努めている ・ 公民館が中心となって、伝統芸能の伝承活動の支援、サークル活動の発表や個人の作品の展示会など、各種の文化活動が盛んである ・ 交通機関、医療福祉施設、生活関連施設、教育施設等も充実しており、住みやすい ・ 様々な団体との連携、協力体制がよく、役員 OB との連携も継続している
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地盤の低い一部の地区や道路の狭い地区では、災害など緊急時の避難体制に不安がある ・ 要援護者の把握と支援体制が不十分で、地域防災との連携強化が必要である ・ 町内会加入世帯の減少に伴い、近隣との関係が希薄な地域もある ・ 各団体のリーダーの高齢化が進み、次世代リーダーの育成が遅れている
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年々高齢者が増加し、独居高齢者・高齢者世帯の対策が必要 ・ 増加する高齢者、要支援者の把握 ・ 介護が必要にならないようするための対策（健康寿命の促進方策） ・ 近所づきあいの希薄化、地域コミュニティ不足への対応 ・ ひとり親世帯や障がい者の実態把握と支援体制

宮前地区社会福祉協議会

次世代へ つなぐ福祉のバトン 温かく

構成団体	地区民協・広報連絡協議委員会・公民館・PTA・母子会・保護司会・婦人会・サロン 高齢クラブ連合会・支所・中学校・小学校・子供会連合会・更生保護女性会宮前支部	
主な取り組み	活動内容	
3 地区合同施設訪問	毎年、三津浜・高浜・宮前地区が合同で、地区外の福祉施設に入所された地元出身の方々を訪問・激励しています。	
高齢者のみまもり活動	民協会と協働して 75 歳以上の人に「敬老の日記念事業」、寝たきり高齢者・65歳以上のみまもりしている独居高齢者を訪問し、現況を確認しています。	
地域団体との連携	地域で活動している様々な団体に助成を行うとともに、情報共有して連携した活動が強化されるよう取り組んでいます。	

世代間交流の推進

福祉学習事業の一環として、小・中学校の子どもたちが地域の高齢者や障がい者施設を訪問したり、みまもりしている独居高齢者に暑中見舞いや年賀状を送るなど、世代間交流を推進しています。



<地区社協が目指すもの>

宮前地区社協は、基本理念を「次世代へ つなぐ福祉のバトン 温かく」とし、人々の心のふれあいを大切にしたい相互支援の輪を広げる活動を推進しています。

当面の課題は、高齢者の寝たきりを防ぐ方策や健康寿命を延ばす活動、また、恵まれない人達への支援など地域福祉の要望に対応できる仕組みづくりを行うことです。そのため、地区内の各組織・団体と福祉課題を共有し、相互に連携した活動の推進に努めること、及び組織の交流によって次世代へつながる人材を育成していけるよう取り組んでいきたいです。

地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	23名 2名	■町内会	31 団体
	■まち協の設立	—	■高齢クラブ	4 クラブ
			■子ども会	19 団体
			■自主防災組織	31 組織

J R と私鉄の駅があり、市内郊外へ出かけるのに便利であると同時に、地区近隣の高等学校へ通う生徒の玄関口となり、朝夕は若者の往来で賑わいます。教育のほか医療、福祉、交通機関等が整備されており住みやすいため、転入者も多くみられる地区です。新たに住民が増えると地区内での関係づくりが問題となりますが、地区内団体間での連携や多世代交流などにより地域力を保っています。地区社協が取り組む世代間交流活動は、保護者が地区外出身者の子どもたちも、地区の一員として生活をしている実感を得る貴重な取り組みとなっています。地域を支える人材育成が世代交代をスムーズにすることが期待されています。



宮前地区の主要交通網と **いこいの場**



松山観光港への道路
(高山町)



JR三津浜駅
(会津町)



中央通り
(古三津6丁目)



宮前川沿いの風景



明神丘から宮前地区を展望 (古三津5丁目)



コミュニティ道路
(祓川2丁目)



中須賀公園



内浜公園



会津公園



宮前地区地域福祉活動計画

1. 基本理念

次世代へ つなぐ福祉のバトン 温かく

2. 基本計画

(1) 地区社協の基盤整備

実施計画	年度計画					5年計画
	4	5	6	7	8	
理事会・総代会（総会）の開催	充実	⇒	⇒	⇒	⇒	理事会（5月）、総代会（6月）を年1回継続して開催する。 総代会には地区内の各種団体に出席をお願いする。
広報啓発事業「みやまえ福祉だより」の発行	充実	⇒	⇒	⇒	⇒	年間1回、約6,000部発行。 啓発調査部長と地区社協役員の編集委員会を開催し内容の充実に努める。
各種会則の整備	検討	⇒	⇒	⇒	⇒	会則の見直しを検討する。
活動資金の確保（全戸会員制社協会費）	充実	⇒	⇒	⇒	⇒	1世帯200円にて全戸会員制により活動資金の確保に努めていく。世帯数に応じ、広報連絡協議委員会を通じ集めている。
役員会の開催	充実	⇒	⇒	⇒	⇒	会長、事務局長、援護部長、啓発調査部長、会計の5人の役員で、必要に応じて理事会の内容・課題等について協議を行う。
地区社協の拠点整備	検討	⇒	⇒	⇒	⇒	事務局の拠点整備について関係者との協議を行う。

(2) 福祉学習とボランティア

実施計画	年度計画					5年計画
	4	5	6	7	8	
福祉学習事業	充実	⇒	⇒	⇒	⇒	市社協からの助成金により継続して実施する。三津浜中学校、宮前・みどり小学校の3校ともに、施設訪問及びボランティア活動を実施する。
児童健全育成に関する事業	充実	⇒	⇒	⇒	⇒	福祉学習事業の一つとして実施。宮前小学校との連携を図る(みまもり独居高齢者への、年賀状・暑中見舞い)
各種研修会の開催	充実	⇒	⇒	⇒	⇒	地域包括支援センターや事業所等が開催する介護教室等への協力を継続して実施する。地域住民が求めるテーマによる研修内容等を協議する。
地区内施設等の行事への参加・協力	充実	⇒	⇒	⇒	⇒	地区内福祉施設など夏まつり等への参加・協力を継続実施する。
子ども会連合会への支援	充実	⇒	⇒	⇒	⇒	子育て支援のため助成し、今後事業の広がりを図りたい。

(3) 在宅福祉・生きがい介護予防サービス

実施計画	年度計画					5年計画
	4	5	6	7	8	
地域福祉サービス事業 (協力会員活動)	検討	⇒	⇒	⇒	⇒	年3回の定例会(福祉サービスの会)を開催し研修を実施している。 (協力会員55名)
ふれあい・いきいきサロン事業	充実	⇒	⇒	⇒	⇒	サロン4か所の充実と助成金を負担しながら、指導者の育成につとめる。
地域交流サロン事業の計画	検討	⇒	⇒	⇒	⇒	健康体操等、地域コミュニケーションの場を広げる。
ふれあい料理教室	充実	⇒	⇒	⇒	⇒	年2回、高齢者対象の料理教室を開催し、今後とも内容の充実を図っていききたい。
みまもりしている独居・寝たきり高齢者等訪問(寒中見舞)	充実	⇒	⇒	⇒	⇒	65歳以上の寝たきり、みまもりしている独居高齢者へ、年1回の訪問を継続する。

高齢クラブ・母子会 婦人会・更生保護女性会 宮前支部への支援	充 実	⇒	⇒	⇒	⇒	それぞれの会を助成し支援をする。 高齢クラブは4か所
敬老の日記念事業	充 実	⇒	⇒	⇒	⇒	地区75歳以上の高齢者に敬老の日 記念品配布時に、悩み事相談があれば 包括支援センター等専門機関へつな ぐ。

(4) 関係団体との協働・連携

実施計画	年度計画					5年計画
	4	5	6	7	8	
公民館事業との連携	検 討	⇒	⇒	⇒	⇒	各団体を通じて公民館事業に参加し ていく。子どもチャレンジ事業等
地区民協との協働・連携	充 実	⇒	⇒	⇒	⇒	更なる連携・協働を図り、地域福祉の 推進を目指す。 見舞金配布や共同募金活動、敬老の日 事業を委託し活用していく。
広報連絡協議委員会との 連携	充 実	⇒	⇒	⇒	⇒	地域活動の中核であり、連携・強化を 推進する。
地区自主防災連合会との 連携	検 討	⇒	⇒	⇒	⇒	防災訓練に参加し知識習得に努め、防 災意識の高揚を図る。災害発生時の社 会福祉協議会としての活動を検討す る。
地域包括支援センター との連携	充 実	⇒	⇒	⇒	⇒	地区社協の定例会（福祉サービスの会） で年間3回会議を開催し、高齢者 対応の情報交換を推進する。年1回の ケア会議。

(5) その他

実施計画	年度計画					5年計画
	4	5	6	7	8	
宮前福祉を考える会	充 実	⇒	⇒	⇒	⇒	年3回の定例会（福祉サービスの会） の後、各種団体の代表者と福祉課題を 検討する。

宮前地区地域福祉活動計画策定委員会の開催状況

1.委員会メンバーの選定

11ページに掲載

2.策定委員会の開催

策定委員により話し合い、各事業の評価と課題をあらいだし、5年計画を検討。

地区	名称	場所	開催日時	参加者	内容
宮前	策定委員会	宮前公民館	第1回 R3.11.2 (火) 13:30~16:30	策定委員 5名	地域福祉活動計画についての説明 策定委員の選定
			第2回 R3.11.26(金) 13:30~15:30	策定委員 13名	地域福祉活動計画についての説明 基本理念の決定 委員長等の決定 5年計画の協議
			第3回 R4.1.14 13:30~15:30	策定委員 5名	5年計画の協議 資源マップの分類について
			第4回 R4.1.19 13:00~14:00	策定委員 5名	伝統芸能 虎舞保存会、伊予源之丞 保存会、写真の選定、他
			第5回 R4.3.18	策定委員 14名	表紙・構成・内容等を書面により 最終確認



【第2回策定委員会】

市社協から、只信さんと室岡さんの出席を頂き、地域福祉活動計画について、説明や内容について一つ一つご指導を頂きました。



【第4回策定委員会】

コロナウイルス感染拡大防止のため地区社協の役員で、内容や集めた写真の選定などを検討しました。

3.地区役員会での承認と計画内容等更新・変更

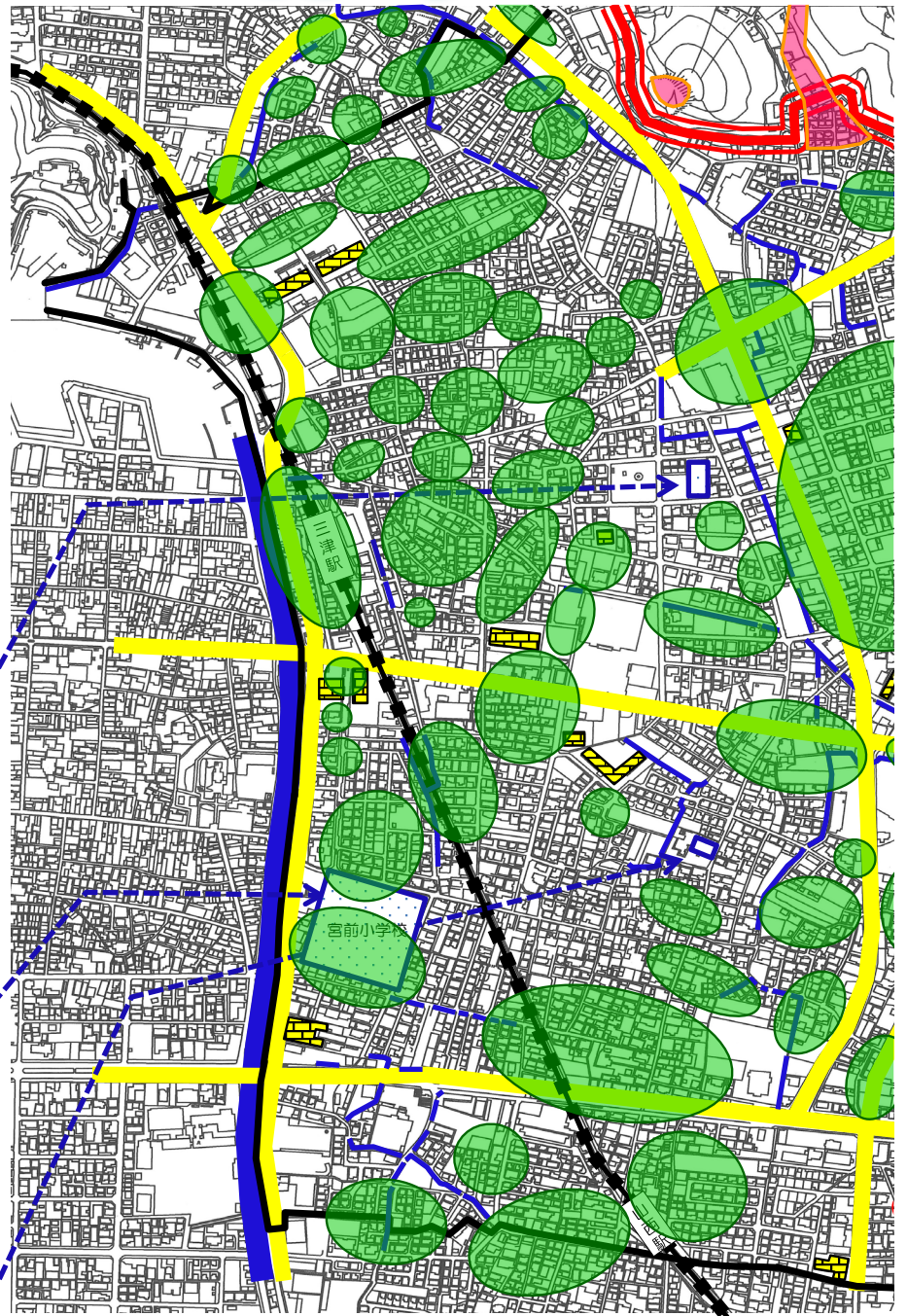
- 委員会で検討し作成した計画は、今後、地区社協役員会に提示し承認を受けます。
- 承認後、地域住民に広報し、計画の実行に向け事業展開を行います。
- 市社協事業等の見直しなどの影響で、内容変更を余儀なくされることが想定されます。
- 委員会・役員会で協議し、修正を行いながら進化し、柔軟なスタイルを継続させる計画とします。

宮前地区地域福祉活動計画策定委員名簿

役 職	氏 名	備 考
委員長	和田 克博	宮前地区社会福祉協議会会長 宮前地区民生児童委員協議会監事
副委員長	猪本 峰雄	宮前地区社会福祉協議会顧問 宮前地区民生児童委員協議会会長
副委員長	岡田 茂	宮前地区社会福祉協議会副会長 宮前地区広報連絡協議委員会会長
委員	岡田 久美子	宮前地区社会福祉協議会監事 宮前地区婦人会会長
委員 (事務局)	岡田 英子	宮前地区社会福祉協議会事務局長 宮前地区民生児童委員
委員	和田 純子	宮前地区社会福祉協議会会計 宮前地区民生児童委員
委員	山崎 千代香	宮前地区社会福祉協議会援護部長 宮前地区民生児童委員
委員	上田 光子	宮前地区社会福祉協議会啓発調査部長 宮前地区民生児童委員
委員	小泉 美紀子	宮前地区社会福祉協議会副会長 宮前地区民生児童委員協議会副会長
委員	二神 英子	宮前地区社会福祉協議会理事 宮前地区民生児童委員協議会監事
委員	渡部 洋子	宮前地区社会福祉協議会理事 宮前地区民生児童委員
委員	村上 裕子	宮前地区社会福祉協議会理事 宮前地区民生児童委員主任児童委員 宮前地区自主防災連合会副会長
委員	西條 小夜子	宮前地区社会福祉協議会理事 サロンさくら苑代表
委員	稲井 裕子	松山市地域包括支援センター三津浜センター長

みやまえ

宮前地区境界線	—
標高5mライン	≡
幅8m以上の道路	—
5階建以上の建物	■
JR線をまたぐ道路	➡
河川・水路	—
池など	■
津波避難場所	★
内水氾濫注意箇所	○
土砂災害危険箇所	■
避難所	□



中須賀保育園



松山市立 宮前小学校

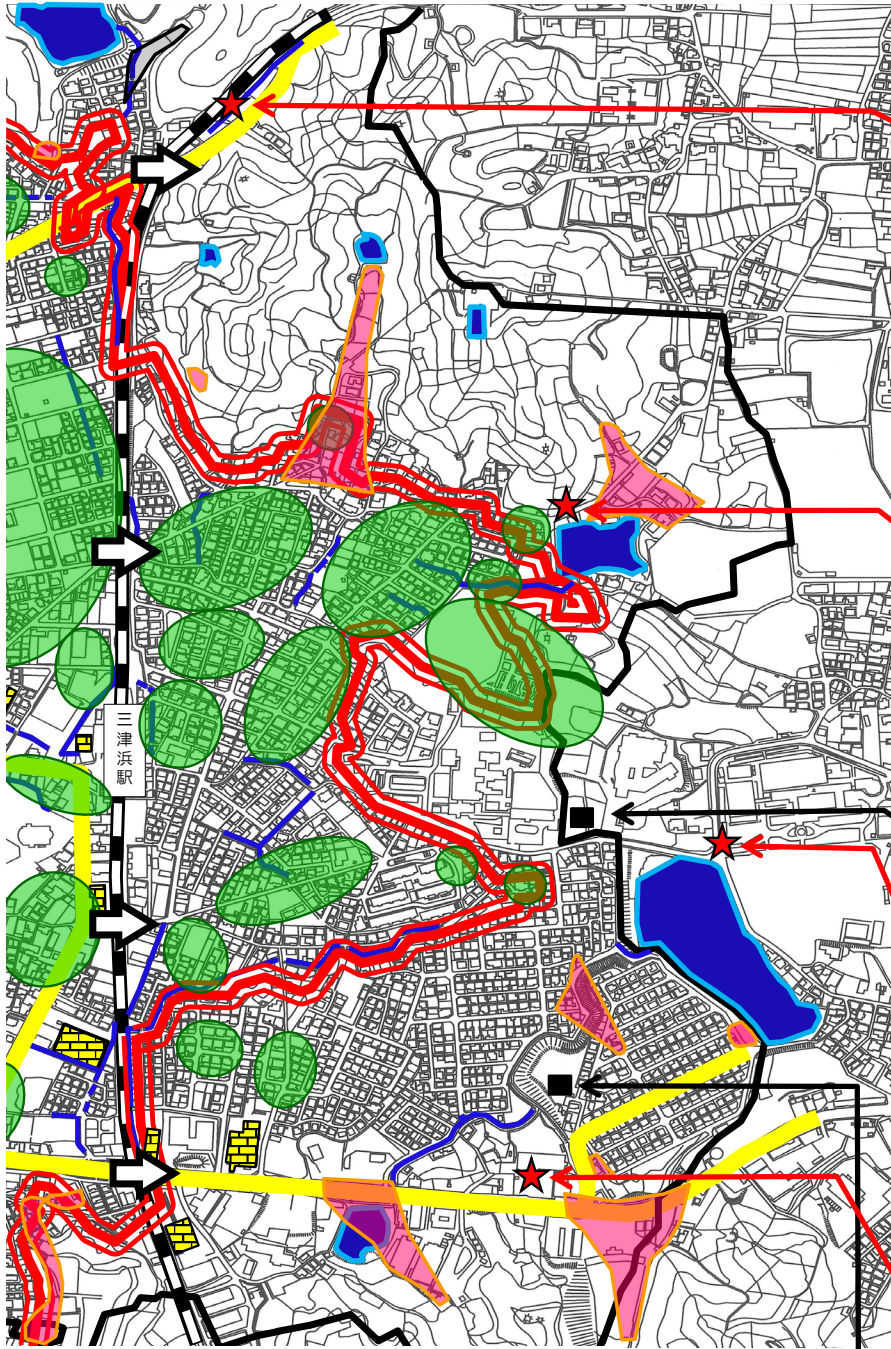


宮前公民館



宮前地区は西が海、南北を山に囲まれています。低い土地が多く宮前川の洪水・内水氾濫・津波などにより、ほとんどの地区で浸水被害の恐れがあります。また山側では土石流、がけ崩れなどの土砂災害が発生する恐れがあります。台風や大雨時には注意が必要です。天気予報などから情報を集め、早めの避難行動を心掛けましょう。

ぼうさいマップ



光輪閣駐車場付近



三ツ越池付近



宮前防災倉庫②



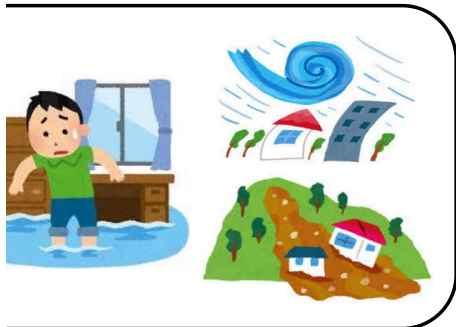
愛媛県立松山西中等教育学校付近



宮前防災倉庫①



育英第二幼稚園付近



三津浜・宮前地区 社会資源マップ (介護保険事業所編)

250m
50 100 150 200 250m

(C)2008 INCREMENT P CORP.

伊子灘

250m

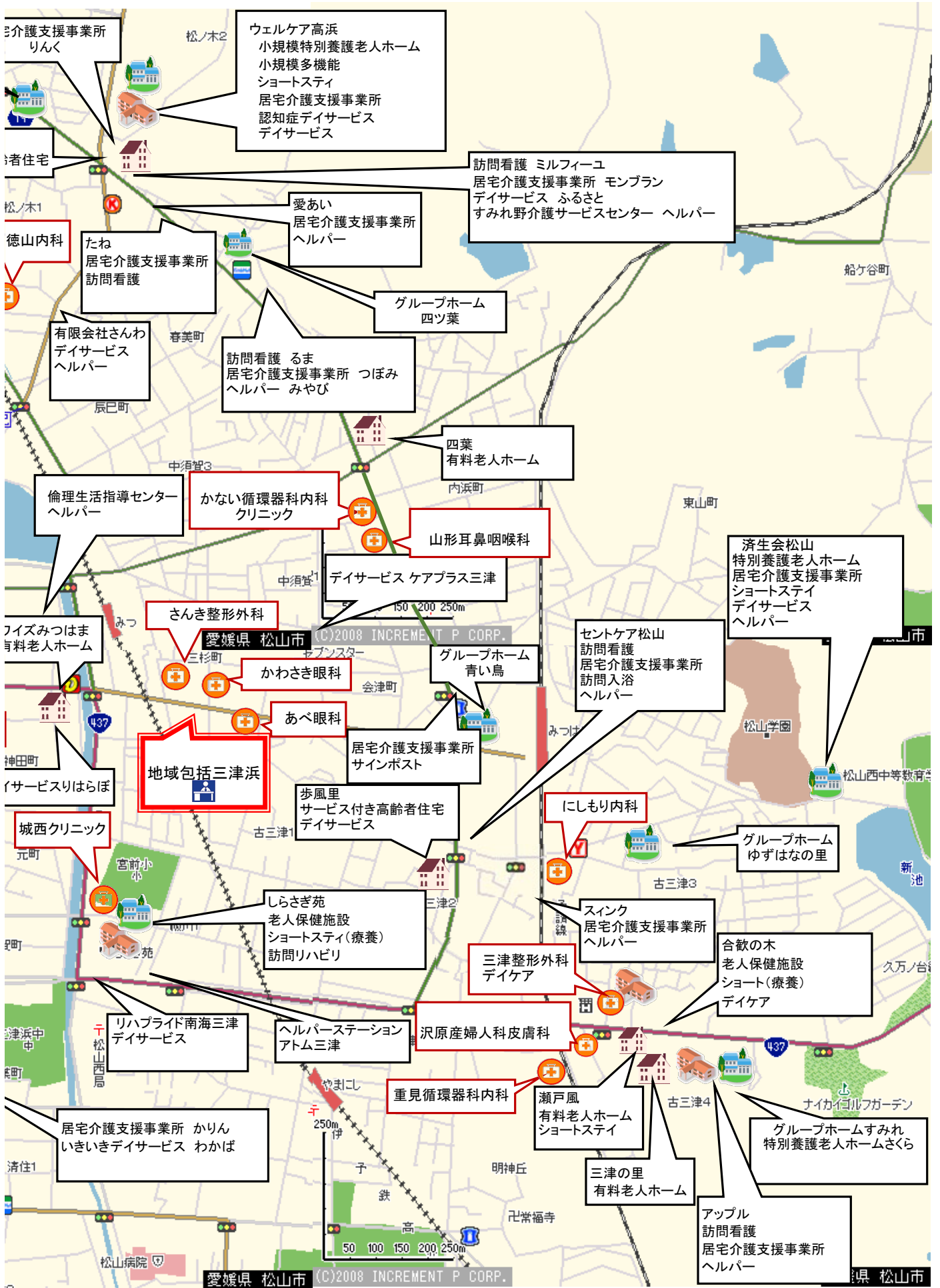
令和4年3月現在
包括支援センター三津浜
資料提供

愛媛県 松山市

(C)2008 INCREMENT P CORP.

50 100 150 200 250m

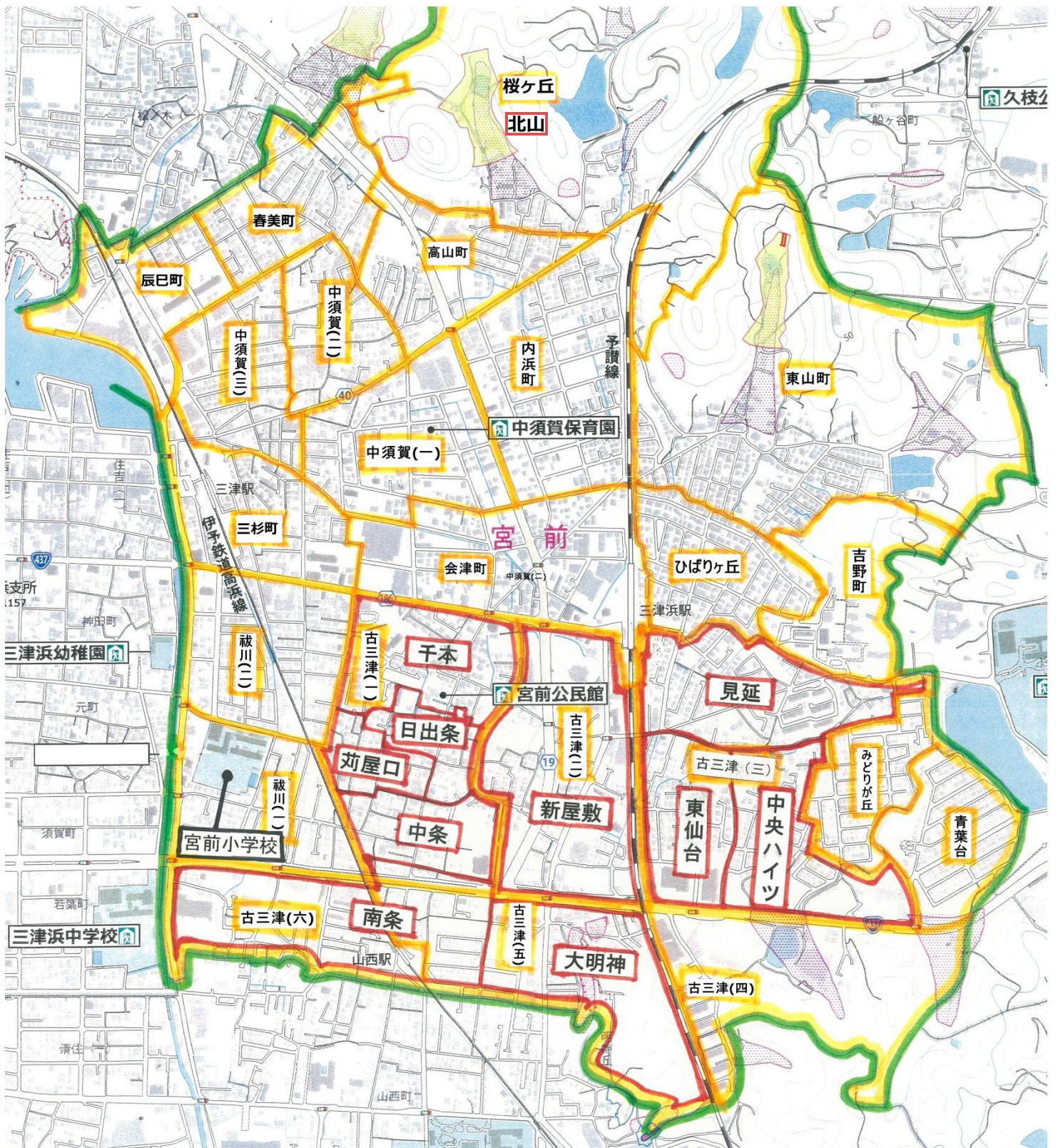




宮前地区 社会資源マップ



宮前地区の町名（旧町名）



古三津1丁目	千本・日出条・荻屋口・中条・南条一部
古三津2丁目	新屋敷
古三津3丁目	見延・東仙台・中央ハイツ
古三津5丁目	大明神・南条一部
古三津6丁目	南条

・桜ヶ丘 ← 北山

宮前地区紹介

- ふれあい・いきいきサロン
- 伝統芸能 1.古三津虎舞保存会
- 伝統芸能 2.伊予源之丞保存会
(文楽)
- 宮前文化遺跡を守る会

宮前地区 ふれあい・いきいきサロン開催状況一覧

《サロンひまわり苑》

実施場所	祓川集会所		
年間回数	48回(月4回)	実施日時	毎週火曜日 9:30~11:30
参加人数	25名	参加費(会費)	300円/月

《いきいきサロンさくら苑》

実施場所	桜ヶ丘集会所		
年間回数	24回(月2回)	実施日時	土曜日 1時間
参加人数	20名	参加費(会費)	200円/月

《温温サロン》

実施場所	中須賀集会所		
年間回数	24回(月2回)	実施日時	木曜日 不定期
参加人数	11名	参加費(会費)	0円

《華はなサロン》

実施場所	中須賀集会所		
年間回数	36回(月3回)	実施日時	第1.第2. 第3 金曜日
参加人数	20名	参加費(会費)	0円

[宮前の伝統芸能]

1 古三津虎舞保存会

会長 岡田 賢二

① 虎舞の起源（伊予古文書より）

慶長2年（1597年）加藤嘉明は、豊臣秀吉の第2回朝鮮出兵に伊予の勇士2400人を率いて出征、山中で虎狩りを行いその頭と皮を秀吉に献上し、大いに喜ばれた。この時、虎狩りに参加した兵士の中に、古三津地区の出身者が多数いたと言われています。そこで地元へ帰還した者が、虎狩りの様子を伝えるべく、張子の虎を作り、槍や鉄砲を持った勢子がこれを退治する虎舞を舞ったのが起源といわれています。以来、毎年10月の秋祭りに奉納している。

② 踊りの内容

前半：天下泰平とばかり踊りまわる。

後半：勢子が現れ、死闘を繰り広げる。勢子は悪戦苦闘の末ようやく猛虎を退治する。

③ 踊りの人員構成

1. 虎使い 2名（頭1名 尻尾1名）
2. 勢子 1名（火縄銃を持ち、防具を付ける）
3. 笛 2名（竹笛を持ち、紺のハッピに白ダスキをしめる）
4. 太鼓 1名（太鼓を用い、紺のハッピに白ダスキをしめる）

④ 勢子の台詞（せりふ）

読めたりや、読めたりや、さては異国の虎狩りなるか、あの笛・太鼓は勢子のもの、ここは聞こえし千里ヶ原、虎いななけば風おこる猛獣の精とおぼえたり、二十四孝の陽光は孝行の徳により自然とのがれし悪孝の難、その孝行におとるとも、忠義に勇む我が勇気唐へ渡って力を試し、神力増します大和力、虎はおろか鬼でも蛇でもひとくじき。

【 古三津子ども虎舞教室 】

会長 田中 静江

平成3年（1991年）6月に発足しました。

宮前公民館で毎月第2、4（土）午後7：30～9：00

※ 大会前は集中練習をします。

《活動例》

- ・ 秋祭り子ども神輿宮出し
- ・ 宮前地区文化祭
- ・ 敬老会
- ・ 施設慰問
- ・ 県民総合文化祭『子ども伝統文化フェスタ』
- ・ 松山子ども芸能大会

[古三津の虎舞]

<大人虎舞>



左は現在使われている頭、右は明治時代のものと思われる。



文化祭（宮前公民館）



秋祭り（三津巖島神社）



秋祭り（三津巖島神社）

<子ども虎舞>



平成5年（1993）中岡照歳氏より
一刀彫り手作り虎一式 2体寄贈



大人虎と一緒に



秋祭り
（三津巖島神社）

施設慰問



2 伊予源之丞保存会

会長 岡田 正志

- ① 伊予源之丞とは、三津浜地区に伝わった人形浄瑠璃（文楽）である。
- ② 江戸時代、三津の恵美須神社のお祭りに淡路島から人形芝居をまねいて上演したところ大変にぎわった。明治時代のはじめ、三津新町の宝来屋新造が「宝来座」を立ち上げた。昭和10年に「伊予源之丞」（源之丞は江戸時代の役職名）と名前を変え、昭和34年には古三津地区で座員や愛好者有志により「伊予源之丞保存会」が結成されて現在に至る。
- ③ 文楽の三業（さんぎょう）とは
 1. 義太夫・・・浄瑠璃を語る（かたる）人
 2. 義太夫三味線をひいて、その場を盛り上げる人
 3. 人形を動かす人・・・一体を3人で動かす
 - ※ 主遣いは、顔を出して浄瑠璃に合わせて左手で首（頭）を持ち、右手で人形の右手を操る。
 - ※ 左遣いは、黒衣を着て右手で人形の左手を持ち、小道具などの補助をする。
 - ※ 足遣いは、黒衣を着て主遣いの動きに合わせて人形の両足を操る。
- ④ 貴重な文化財（人形・衣装一式）

昭和39年（1964年）愛媛県無形民俗文化財に指定された。現在は、宮前公民館と愛媛県歴史文化博物館に保存されている。昭和38年（1963年）和田茂樹氏の調査によると、頭は79点あり、ほとんどが明治末期のものである。阿波（徳島県）の名人天狗屋久吉が作ったものが42点、天狗屋弁吉が作ったものが5点、松山の名工といわれた面光が作ったものが5点含まれている。現在、坂の上の雲ミュージアムで人形の頭2点を展示している。

また、豪華な衣装も残っている。
- ⑤ 演じられる有名な物語
 - 「傾城阿波鳴門（けいせいあわのなると）」
『巡礼歌の段』
 - 「祝い大漁戎舞（いわいたいりょうえびすまい）」
 - 「鬼一法眼三略の巻（きいちほうげんさんりゃくのまき）」
『五条橋の段』

[伊予源之丞]



中須賀・春美・高山連合 敬老会
(中須賀集会所)

明治40年1月天狗屋久吉の作品

「祝い大漁戎舞」の恵比寿(えびす)
※鯛を釣り上げたところ



←明治44年4月天狗屋久吉の作品

「鬼一法眼三略の巻」

『五条橋の段』の牛若丸(うしわかまる)

明治45年4月天狗屋久吉の作品→

「鬼一法眼三略の巻」

『五条橋の段』の弁慶(べんけい)



明治40年松山面光 林祥山の作品

「玉藻前曦袂(たまものまへあさひのたもと)」

『三国伝来の妖狐』に使う特殊な頭で九尾の狐。

※九尾(9本の尻尾)を立てたところ



明治40年10月天狗屋久吉の作品

「傾城阿波の鳴門」

『巡礼歌の段』

※お弓がおじぎをしている
ところ



明治30年松山面光の作品

「祝い大漁戎舞」の下男(しもおとこ)与次郎

※口を開けたところ

宮前文化遺跡



資料提供
宮前文化遺跡を守る会

【藤原純友の遺跡】

平安時代の役人で伊予の国司としてこの地にやってきました。やがて日振島を本拠地とし、近く
の海賊たちを率いて宇和海や瀬戸内海沿岸を支配し西国地方を荒らしまわった。しかし、朝廷軍や地方の武士団に抑えられた。

(939年)「藤原純友の乱」

① 久枝神社

昔、古三津村の大明神に「住吉神社」「祇園社」「岩崎神社」があった。明治の初め神社統合令により、「巖島神社」に集められた。その後明治12年に現在の地に「久枝神社」として祭られるようになった。

② 藤原純友館跡碑（明神丘）

現在の久枝神社の南側、大明神山の（明神丘）に石垣を築いて館を造り、防戦に努めた。この館があった付近に碑を残している。

③ 駒つなぎの松跡石碑（久枝神社境内）

藤原純友の館の一角に、馬小屋があり、その近くに「駒つなぎの松」があったといわれている。「宮前文化遺跡を守る会」設立20周年記念に石碑を建てた。

④ 純友井戸（久枝神社境内）

藤原純友が使っていたと伝えられている。昭和の初め頃まで飲み水として使われた。

⑤ 駒立岩（久枝神社境内）

藤原純友が馬に乗り、この岩の上から潮の干潮を見たといわれている。

⑥ 孀塚碑（やもめづか）（中央ハイツ公園内）

平安時代、孀塚山頂に塚があった。藤原純友の乳母の塚と伝えられている。

⑦ 鬼塚（東仙台）

藤原純友の重臣の塚と伝えられている。

【岡田十五郎の遺跡】

63歳で亡くなった。文政年間に久万の台新池をつくり、一所懸命農業を進め、村民を困窮から救い、繁栄に導いた郷土の先駆者です。

⑧ 賞徳記念碑

明治31年村長乗松熊太郎が建設世話人と計画し、岡田十五郎の功績をたたえ記念碑を建てた。

⑨ 岡田十五郎神社

久枝神社境内の奥にある。文政6年（1823

年）に完成した久万の台新池の170周年に当たり、岡田十五郎の功績をたたえ、平成4年10月三津土地改良区が神社を建立した。

⑩ 岡田十五郎神社縁起

神社建立のときに、この石碑も建立した。

⑪ 儀光寺の墓

儀光寺には、岡田十五郎の墓と功績を記した解説板がある。

【地蔵尊・薬師・お寺】

⑫ 南条地蔵尊

江戸時代に井戸掘りをして発見されまつられた。耳の不自由な地蔵さんともいわれ、お地蔵さんの背中をたたいて拝んでいた。

⑬ 儀光寺

昔、儀光寺は由利島にあった。奈良時代に儀光上人が十一面観音像を奉じ由利島にお寺を建てたと伝えられている。鎌倉時代に地震による津波で大きな被害を受け、島民は本尊や仁王門を古三津に再建して移住した。

⑭ 掘出観音

明治の初め頃、千本町の民家の裏から石仏が掘り出され、田中掘出観世音と命名し、お堂を建て地元の人達により祭られている。

⑮ 法雲寺

室町時代、古三津の村寺として建てられた。竜宮城のような山門や青銅による弘法大師立像、巨大な地獄の釜、ミニ八十八か所お砂踏みもあり、人間の生と死の小宇宙が法雲寺の境内に満ち満ちている。

⑯ 一畑薬師

昔から千本町の守り仏としてまつられていたが、住宅建設により、緑地帯へ移された。

⑰ 千本地蔵尊

別名「松山城四方固めの地蔵尊」

1602年、松山城の上棟式の四方固めの餅を古三津のお百姓達が拾い持ち帰りまつった。

【刈屋畑の合戦の遺跡】

伊予の歴史に残る「刈屋畑の合戦」は、有名な史実である。1600年9月、徳川方の東軍に味方した加藤嘉明の重臣たちが主人の留守を守っていた。一方、豊臣方の西軍に味方した毛利輝元に恩を感じていた河野氏の遺臣たちは、お家再興と領地奪回をねらい立ち上がり、両軍の間で激しい戦いが繰り広げられた。後に「伊予の関ヶ原合戦」とも呼ばれたこの戦いは、加藤軍の勝利に終わった。

⑱ 加藤さん（十門城城主）

加藤軍の武将の一人、加藤遠江守長康及びその他の物故者の霊をまつている。



㉓ 長袖さん

この戦いに巻き込まれた長袖を着た神官か公家をまつている。



⑲ 阿部さん 橋本さん

阿部兵庫守、橋本兵庫介の塚だといわれている。

⑳ 若宮さん

志半ばにして残念な最期をとげた武将と多くの物故者をまつている。



㉔ 村上さん

河野方三将の一人、村上掃部頭元吉をまつている。村上水軍、村上大和守武吉の長男。竹原市に村上一門のお墓があり元吉の死により村上水軍も滅亡した。



㉑ 能島さん

河野方三将の一人、能島匠頭源吉忠のお塚。元村上水軍の城主だった。

㉒ 曾根さん

毛利軍の中心であった曾根兵庫介高房をまつている。

㉕ 沖の明神（南条）

1600年の刈屋畑の合戦で戦死した武将や郎党達のお塚さんが岡田武氏の屋敷内に多数あった。

昭和12年（1937年）頃それらを一か所にまとめて祠を建立し手厚く祀っている。

㉖ 能登さん

兵庫県の地方城主、毛利軍の能登但馬守をまつている。

【古三津エリア】

- ②7 天満池擴築記念碑
天満山のふもとに天満池がある。昔はため池として使われ、昭和9年、拡張工事が行われ記念碑が建立された。
- ②8 JR三津浜駅
昭和2年(1927年)に創業、化学繊維みかんなどの出荷が盛んで、貨物中心であった。
- ②9 御津大明神(元屋敷跡)改築
巖島神社が現在地に建てられる前は、今の古三津新屋敷方面にあったと言い伝えられている。岡田賢二氏宅にまつられている。
- ③0 宮前消防分団半鐘台跡
宮前消防分団は会津町に移転し、半鐘台は④0に移転した。

【中須賀エリア】

- ③3 岡田善太郎碑
明治34年、古三津村の岡田善太郎が家屋を構え中須賀の発展のため、さまざまな功績を挙げた。現在、その功績を称え石碑が立てられている。
- ③4 伊予鉄三津駅
明治21年10月日本最初の軽便鉄道伊予鉄道が松山～三津間に開通した。老朽化のため平成21年立て替えられた。
- ③5 石崎ナカ顕彰碑
文政2年(1819年)三津で生れ、女性ばかりの寺子屋を建てた。昭和60年2月伊予鉄三津駅の南側に石崎ナカの顕彰碑が立てられ、今日でも立派な教えとして残っている。「平生心得」と「処世訓」が刻まれている。
- ③6 九人地蔵尊
天和4年(1684年)12月温泉郡古三津村大字堀川の漁師仲間九人が、山口県大島郡情島近くまで出漁した。悪天候で近くの情島に避難した。ところがたまたまこの島で九人組の集団強盗事件があった。島人達はこの漁師達を強盗団と誤認し九人は殺害された。その後、殺害の命日には必ず暴風雨が起こったり、伝染病が発生したりして島は不幸に見舞われた。その後真犯人が検挙され、九人の無実が判明し、島人は九人を地蔵尊に祀り上げ懇ろに供養した。すると島に平和が戻った。古三津でも同様に九人地蔵尊をまつようになった。



③6 九人地蔵尊

- ③1 古三津一丁目の道しるべ石碑
大正5年、濱田卯一郎氏により建立された。「右太山寺道」「左三津濱道」「右松山道」と書かれている。
- ③2 刈屋口の常夜灯
常夜灯は、夜道の安全のため街道沿いに作られていた。金比羅さんと呼ばれ、祭りののぼりには「金比羅大権現」と書かれている。秋祭りには神輿を据えて安全祈願を行っている。昭和43年現在の場所に移された。



⑨ 岡田十五郎神社

【桜ヶ丘・高山・校区外】

- ③7 耳塚
600年(大和朝廷時代)越智益躬が泥棒を討ち、その耳を切って埋めたと言われている。
- ③8 高山城跡
1334年～1585年道後湯築城の近習頭である高山雅楽介の城であったと言われている。
- ③9 姫塚(大地主の神)
天照大神の孫娘が、伊予のこの地に生まれ、生涯を全うされた。地元の人々は、やさしく美しい姫の遺徳を偲び立派な姫塚を建てた。松山学園の北の庭に鎮座している。
- ④0 みつはま松山港務所
消防救急艇棧橋の照明灯
古三津一丁目の元宮前消防分団の半鐘台である。この半鐘台は2代目で昭和22年から半世紀にわたり古三津地区住民に親しまれ、火の用心のシンボルとして住民の安全を見守ってきた。平成20年7月取り壊しとなったが永く後世に伝えたいという住民の熱い想いを受け、消防救急艇の安全を守る新たな役目を得て三津浜フェリー乗場へ移築した。
- ④1 三津巖島神社
600年(大和朝廷時代)第32代崇峻天皇の時代に、九州宗像大社より宗像三女神(市杵島姫命・湍津姫命・田心姫命)をお迎えしてまつたのが始まりである。海上安全・交通安全の神としてまつられている。元は、元屋敷(松山西中等教育学校付近)にあったが、1602年刈屋畑の戦いで焼失し現在の地へ建てられた。

第2期 宮前地区地域福祉活動計画書

発行：宮前地区社会福祉協議会

《問い合わせ先》

松山市社会福祉協議会 地域支援課
〒790-0808 松山市若草町8番地2 松山市総合福祉センター内
Tel : 089-941-3828 / Fax : 089-941-4408
Web アドレス <http://www.matsuyama-wel.jp/>
E-mail chiiki@matsuyama-wel.jp

発行日：令和4年3月